

研究主題 「個に応じた指導の充実を図る国語科における指導内容・方法の研究開発」

## ～生徒による授業評価を活用した校内研修の推進～

### I 主題設定の背景及び理由

「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」という言語活動によるコミュニケーションを通して、社会は成立する。現在のような多様化した社会では、言語の果たす役割は重要であり、言語を扱う国語科の責任は重い。

今年度は「個に応じた指導の充実を図る指導内容・方法の研究開発」という共通研究主題の下に、過去の研究を踏まえ、多様化した社会の中で生徒が生きていくために「確かな学力」を養うことが肝要と考えた。「確かな学力」とは、具体的には「知識や技能に加え、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力までを含めたもの」であり、「豊かな人間性」「健康と体力」とともに「生きる力」を構成している。この「確かな学力」は、基礎・基本を定着させる指導と、生徒の主体的な学習・課題発見と解決の喜び・学習意欲の高まりにより支えられる。

国語科における「確かな学力」とは、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」そして「知識・理解」である。とりわけ高等学校においては、生徒一人一人が、考える、感じる、想像する、表すといったことに基づいて、言語活動（「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」）の豊かな担い手となり、社会で自己実現を図ることができるよう、指導することが求められる。しかし、実際の教室においては、個々の生徒の興味・関心・意欲はもちろん学習経験や学習状況に個人差がある。そこで必要となるのが「個に応じた指導」である。

ところで、平成15年度「東京の教育に関する都民意識調査」の設問、「一人一人に応じた指導を重視していると思うか」に対する回答では、否定的評価（子ども62.5%、大人49.0%）が、肯定的評価（子ども36.3%、大人21.1%）を上回る結果となった。この結果は、「個に応じた指導」が必ずしも十分に行われていない現状を示している。

「生徒による授業評価」は、「個に応じた指導」の実現状況を確認する上でも有効な手法である。そしてその結果を、即時の授業改善につなげたり、校内研修で活用したりするなど各校で組織的に授業評価と校内研修に取り組むことによって、各授業の課題や生徒の現状及び学校の課題が明確になり、各校で育てたい生徒像を教員間の共通認識とすることができる。このことが学校経営計画の具現化への原動力となり、学校の組織としての教育力を高め、教育目標を達成することにつながる。さらに、これらの取組を積み重ねることにより、都民の期待にこたえ得る学校が実現する。

そこで、本研究では、生徒の多様性を生かしつつ学習活動への興味・関心・意欲を引き出し、一人一人の良さや可能性を伸ばす評価規準の在り方や評価方法を工夫し、それを活用した実践を通して「個に応じた指導」の一層の充実を図るとともに、各委員が校内研修の積極的発信者としての役割を担い、授業改善に資するべく取り組んだ。

### II 主題解明の方法

本研究では、「個に応じた指導」をすべての生徒に「確かな学力」を育成するための手段であると位置付け、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域について分科会を置いた。特に「読むこと」分科会では、来年度新教育課程が完成年度を迎えることを踏まえ、これまでの研究を更に進めて、科目として「現代文」を取り上げ、指導内容・方法の開発に取り組んだ。

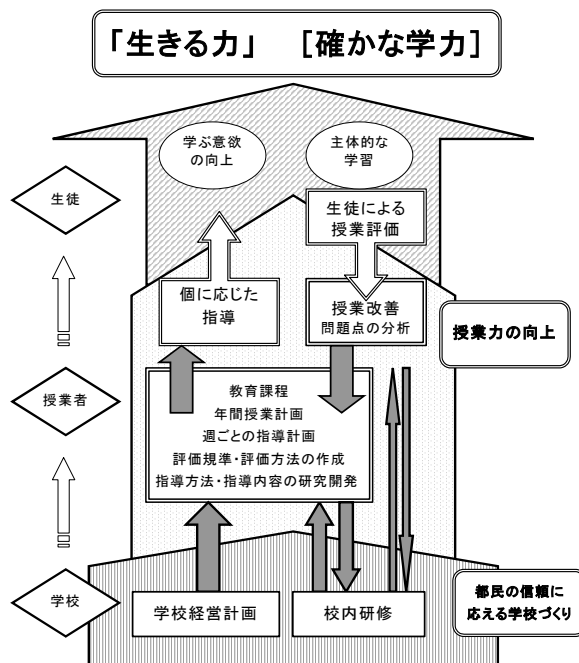
「話すこと・聞くこと」分科会では、パネルディスカッションの形式で、生徒同士で議論を行い、聴衆が議論を分析する等の活動を行った。他者とのコミュニケーション活動により「話すこと・聞くこと」の能力の向上と自己の思考を深めることを目指した。「書くこと」分科会では、古典作品を題材として名所案内を書き、的確に情報を伝える文章を書く力の育成を図った。「読むこと」分科会ではバズ・セッションを用い、作品を通して人間の生き方について考える単元を設定した。

また、生徒の興味・関心・意欲、学習経験、学習状況の定着に応じて教材や課題を提示し、少人数の生徒間で意見交換を緊密に行うことで、個々の主体的な学習活動が展開されると考えた。さらに、全分科会でグループ学習を取り入れ、グループから「個に応じた指導」へと進めることとした。

各分科会で設定した単元で生徒が「確かな学力」を身に付けるためには、生徒が毎回、授業の目標を自覚して学習することが不可欠である。そこで本研究では、授業目標を周知し、定型化した評価票を用いて、毎時間「生徒による授業評価」を実施することとした。この授業評価は、平成16年6月国立教育政策研究所教育課程研究センターから出された、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」の趣旨を踏まえたものである。授業後、「生徒による授業評価」を分析し、以後の授業計画の見直しを行うことにより、生徒が主体的にかかわる授業を作っていくことができると考えた。

授業者は、①年間授業計画に基づいて、その単元・教材で身に付けさせたい「話す・聞く」「読む」「書く」力の指導目標を精選して各単元に配分し、②明確な評価規準と評価方法をもつ単元指導計画を作成し、さらに、③それを受けて週ごとの指導計画を作成する。④「個に応じた指導」の多角的展開により、生徒一人一人の能力の育成を目指す。⑤「生徒による授業評価」を計画的に実施し、⑥「個に応じた指導」が的確になされたかを分析し、⑦問題点を見出し、即時の授業改善を行う。また、⑧校内研修を推進して指導計画を再点検するとともに、⑨他教科や教科外活動との連携や認識の共有化を図り、⑩学校全体で教員の授業力向上及びよりよい授業づくりを目指す。この一連の指導方法の確立を本研究では目標とした。

### Ⅲ 研究構想図



### 3 分科会共通で、毎時間に行った「生徒による授業評価」

※毎時間の授業終了時、生徒にあてはまる段階に○を付けさせた。

- ・生徒が短時間で授業評価を行い、授業者が評価結果をすぐに把握し即時の授業改善が行えるよう、○を付けることを中心にした簡便な評価票を作成した。授業のねらいは授業目標の実現であるという認識に基づき、授業目標に関する授業者の指導、生徒の活動を問う評価項目とした。また、毎回、定型化された評価票に記入をすることで、生徒は単元における自己の変容を把握でき、授業者も即時に確認できる。

	年	組	番	氏名
--	---	---	---	----

	肯定的評価		>		否定的評価		
①この時間の授業目標を覚えていますか。	4	3	2	1			目標の定着
②目標に即応した授業でしたか。	4	3	2	1			ねらいの明確化
③目標の実現に向けて、あなたは積極的に取り組みましたか。	4	3	2	1			関心・意欲
④目標は実現できましたか。	4	3	2	1			自己評価
⑤今日の授業で分かったこと・できるようになったこと・不十分に感じたことなどを書いてください。							内容面

## IV 指導の実際

### 1 「個に応じた指導」の充実を図る「話すこと・聞くこと」の学習指導（国語総合）（第1学年） —「話すこと・聞くこと」の能力を伸ばす議論の指導

- (1) 単元名 パネルディスカッションで思考を深める（「話すこと・聞くこと」）  
 (2) 教材 自主編成教材  
 (3) 単元設定の理由

必要なことを相手に伝えられずに、もどかしい思いをしている。相手の立場を尊重することができず、自分が言いたいことだけを言って会話を終わらせる。その結果、円滑なコミュニケーションを図ることができないで困っている。このような生徒をしばしば目にする。多様化した社会の中で他者との確にコミュニケーションをとることは、生きていく上で不可欠な力である。そこで、生徒には、「対話」や「議論」をする能力を身に付けさせ、伝え合う喜びを味わわせたい。

学習指導要領の「国語総合」の「2 内容」の「A話すこと・聞くこと」の指導事項イ「目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること」、ウ「課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと」を指導の中心に取り上げ、さらに、「3 内容の取扱い」の(2)ウ配慮すべき事項の言語活動例(ウ)「課題について調べたり考えたりしたことを基にして、話し合いや討論などを行うこと」を参考にし、個々の生徒が、互いの立場や考えを尊重しながら、根拠のある主張をし、的確に聞き取り、他者とのやりとりによって自己の思考を深める言語能力の育成を目指す単元を設定した。

具体的には、生徒同士で議論を行い、聴衆が議論を分析する形態のパネルディスカッションを設定した。議論に関する研究で知られるスティーブン・トゥールミンの議論モデルを基に指導し、議論の分析を行った。スティーブン・トゥールミンは議論について、主張（自分が言いたいこと）、根拠（主張を裏付ける事実）、論拠（根拠を主張へつなげる理由付け）から構成されると定義する。年間授業計画では本単元を、1、2学期の「話すこと・聞くこと」計7時間の授業の後、1年間の「話すこと・聞くこと」の学習指導の集大成の単元として、3学期に8時間で設定した。

#### (4) 単元の目標

- ア 相手の立場や意見を尊重し、積極的に発言と聞き取りを行い、他者の議論を参考にして、自己の思考を深めることに努める。（関心・意欲・態度）  
 イ テーマに関する自己の主張を、根拠に基づき議論する。（話す能力）  
 ウ 話し手の立場や主張の根拠を的確にとらえ、議論を分析する。（聞く能力）  
 エ 議論における効果的な話し方、的確な聞き取り、議論の分析の技術を理解する。（知識・理解）

#### (5) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
①相手の立場や意見を尊重しながら、積極的に議論し聞き取ろうとしている。 ②他者の議論を参考にして、自己の思考を深めている。	③テーマに関する自己の主張を、根拠に基づき議論している。 ④話し手の立場や主張の根拠を的確にとらえ、議論を分析している。	⑤議論における効果的な話し方の技術、的確な聞き取りの技術、議論の分析方法を理解している。

#### (6) 指導上の工夫

- ア 興味・関心のあるテーマを班に選ばせ、意欲的に学習を行わせる。  
 イ 単元全体の授業目標、学習活動、評価活動全体の流れが見えるワークシートを作成し、生徒に単元全体の中での毎時の活動の位置付け、目標、評価を常に意識させる。  
 ウ 話し合い、書いた文章へのコメントとそれを活用した推考、パネルディスカッション、聴衆の議論分析、相互評価といった他者と交流する学習活動を取り入れ、常に相手のことを意識する思考活動を促す。  
 エ 評価は、自己評価、相互評価を行わせる。評価者にとって評価しやすい明確な評価規準を作成し、評価の客観性を確保する。  
 オ 毎時の評価、個人内評価を行い、その結果分析に基づいて「個に応じた指導」を適切に行う。

(7) 指導と評価の計画 (「話すこと・聞くこと」分科会)

※欄に応じた指導については斜体字で表記

時間	各時間の目標と評価基準	国語総合 (第1学年)	学習活動	指導上の留意点
1	<p>・パネルディスカッションについて理解し、議論の分析練習を行う。【知識・理解】⑤</p>	<p>1 パネルディスカッションの目的、進行の流れ、役割分担を理解している。 2 効果的な話し方の技術、的確な聞き取りの技術、2種類の議論の分析方法を理解している。 【行動の観察・記述の確認・点検】⑤ ◆ワークシートI・評価票</p>	<p>1 パネルディスカッションのビデオを視聴し、説明を受ける。 2 効果的な話し方の技術、的確な聞き取りの技術、議論の分析方法を学び、パネルディスカッションのビデオで議論の分析練習を行う。 Cの生徒への指導の手だての例 議論を十分に分析できない生徒には、授業者が各議論に応じて分析結果を教える、分析の仕方等を徐々に理解させていく。</p>	<p>1 パネルディスカッションに関するビデオを見せ、ワークシートを基に説明を行う。 2 効果的な話し方の技術、的確な聞き取りの技術、議論の分析方法について、ワークシートを基に確認させる。</p>
2	<p>・パネルディスカッションのテーマに関して、自己の主張をまとめる。 【関心・意欲・態度】①② 【書く能力】</p>	<p>1 根拠に基づき自分の主張をわかりやすく書いている。 2 主張をふさわしい資料を用いている。 【行動の観察・記述の確認・点検】①② ◆ワークシートII・評価票</p>	<p>1 班ごとにパネルディスカッションのテーマを選び、班員各自がテーマに関する自己の主張を書く。 2 次回までに、自己の主張の根拠となる資料を用意する。 Cの生徒への指導の手だての例 主張を明確に書けない生徒には、テーマに関する資料を渡し、まずはそこから読み取れること、感想を書くよう指導する。</p>	<p>1 1クラス6班編成とし、1班は6～7人とし、「国語総合」で扱った教材及び各学校に関する4つのテーマ ①地味な議論を守るために、何をすればよいのか。②学習する意味は何が。③集団生活で得られるものは何か。④職業を選ぶ上で大事なことは何か。( ) から選ぶ。 2 読み手が納得できるような、根拠のある文章を書くように指導する。 3 初期指導により生徒の状況を把握し、個別指導を行う。 4 学校図書館等、資料検索のアドバイスを行う。</p>
3	<p>・テーマについて、資料や他者の主張を参考にし、自己の思考を再構築し文章化する。 【関心・意欲・態度】①② 【書く能力】</p>	<p>1 積極的に他人の文章を読み、文章にふさわしいコメントを書いている。 【行動の観察・記述の確認・点検】①② ◆ワークシートIII・評価票</p>	<p>1 他人の主張を読み、付箋にコメントを書く。 2 1の学習後、黒板に掲示されたワークシートに付箋を貼りに行く。 3 自分のワークシートを取りに行き、コメントに対する回答や用意した資料も入れて、ワークシートの文章を推敲する。</p>	<p>1 前回の全員の文章を印刷し、生徒に読ませる。 2 一人に5枚の付箋を用意し、最低5人以上の文章についてコメントを書かせる。付箋を5枚以上希望する生徒には、その都度配布する。 3 あらかじめ、全員のワークシートをテーマごとに分類し、黒板に提示する。 4 初期指導により生徒の状況を把握し、個別指導を行う。</p>
4	<p>・パネルディスカッションの準備を積極的に行う。 【関心・意欲・態度】①② 【話す・聞く能力】③④</p>	<p>1 パネルディスカッションの準備を積極的に進めている。 【行動の観察・記述の確認・点検】①②③④ ◆ワークシートIV・評価票</p>	<p>1 班ごとに、パネルディスカッションの準備 ①役割分担決め②進行の流れの確認③パネリストは発表内容の確認、予想される質問とその回答、コーディネーターは、司会をする上で大事な点の確認、考えられるトピックとその対策④掲示物の準備)を行う。 2 1時間に2班ずつ、パネルディスカッションを行う。 3 自分のパネルディスカッションで、自己評価を行う。 3 班のパネルディスカッションごとに、議論に応じて、意思表示カードを提示する組、議論を分析する組、他者評価を行う組の3種類の発表が分かれ、活動する。 Cの生徒への指導の手だての例 議論を十分に分析できない生徒には、授業者が各議論に応じて分析結果を教える、分析の仕方等を徐々に理解させていく。</p>	<p>1 1班の持ち時間は20分とする。 2 テーマに対する各自の主張を出し合い、各自の主張とその根拠を確認し合う。主張が全く同じ者がいたら、そこから司会者を出させる。 3 初期指導により生徒の状況を把握し、個別指導を行う。 4 活動をビデオに撮る。 2 3時間のパネルディスカッションの中で、全員交互に聴衆の3種類の活動を行わせる。 3 班のパネルディスカッションごとに、議論に応じて、聴衆の3種類の活動を行わせることで、自己及び他者の話すこと・聞くことの言語能力を明確に把握させる。</p>
5	<p>・パネルディスカッションを通して思考を深める。 【関心・意欲・態度】①② 【話す・聞く能力】③④ ◆聴衆の3種類の活動 ※1・2は議論の分析</p>	<p>1 パネルディスカッションにより自己の思考が深まっている。 2 根拠を基に効果的に議論している。 3 話し手の立場や話の根拠を的確にとらえて、議論を分析している。 【行動の観察・記述の確認・点検・映像の点検】①②③④ ◆ワークシートV・V・評価票</p>	<p>1 1時間、2班ずつ、パネルディスカッションを行う。 2 自分のパネルディスカッションで、自己評価を行う。 3 班のパネルディスカッションごとに、議論に応じて、意思表示カードを提示する組、議論を分析する組、他者評価を行う組の3種類の発表が分かれ、活動する。 Cの生徒への指導の手だての例 議論を十分に分析できない生徒には、授業者が各議論に応じて分析結果を教える、分析の仕方等を徐々に理解させていく。</p>	<p>1 活動をビデオに撮る。 2 3時間のパネルディスカッションの中で、全員交互に聴衆の3種類の活動を行わせる。 3 班のパネルディスカッションごとに、議論に応じて、聴衆の3種類の活動を行わせることで、自己及び他者の話すこと・聞くことの言語能力を明確に把握させる。</p>
6	<p>1 意思表示カード (5種類の提示 (主張/根拠/事実/論拠/理由/付け)</p>			
7	<p>2 議論分析の記録 (主張/根拠・事実/論拠・理由/付け) 3 評価票への記入</p>			
8	<p>・自己の学習活動を分析し、成果と課題を把握する。 【話す・聞く能力】③④</p>	<p>1 ワークシート、評価票、ビデオを基に、パネルディスカッションの学習活動を振り返る。 2 1年間の「話すこと・聞くこと」の学習活動を振り返り、変化した点がある。 【行動の観察・記述の確認・点検】③④ ◆ワークシートVI・評価票</p>	<p>1 ワークシート、評価票、ビデオを基に、パネルディスカッションの学習活動を振り返る。 2 1年間の「話すこと・聞くこと」の活動を振り返る。 Cの生徒への指導の手だての例 ワークシート、評価票を一緒に見ながら、良い点、改善すべき点、思考の深まりが見られる箇所を探せるよう、ヒントを出す。</p>	<p>1 ワークシート、評価票、ビデオを振り返りに活用させる。 2 自己評価と他者評価を照らし合わせ、自己の学習活動を客観的に見つめさせる。 3 初期指導により生徒の状況を把握し、個別指導を行う。 4 ワークシートに記入した内容を発表させる。</p>

## (8) 成果と課題


### ア 成果

- (ア) 授業者が常に主張と根拠を示して議論するよう指導し、生徒がパネルディスカッションで互いに発言者、聴衆の立場で活動し、議論を分析、評価し合ったことにより、生徒の意識に変化が見られた。発言者は、聴衆が言葉を受けとめてくれる喜びを味わいながら、自己の主張を根拠と論拠（事実と理由付け）を基に議論した。また、聴衆も、相手の立場や意見を尊重し、発言者の言葉に細かに気を配りながら、的確に聞き、議論を分析し、自己の思考を深めていった。
- (イ) 毎時の定型評価を実施したことにより、生徒は目的をもって授業に取り組み、授業者は個々の生徒の学習状況を即時的に把握でき、「個に応じた指導」を行うことができた。
- (ウ) 校内で公開授業や授業評価を行うことで、教員同士が共通の課題を発見し、課題の解決方法を共有する場をもつことができた。

### イ 課題

- (ア) 「話すこと・聞くこと」の指導は、系統性を視野に入れながら、継続的な学習活動の設定をする必要がある。
- (イ) 小・中学校との連携を視野に入れて、高等学校における効果的な指導及び評価計画を作成する必要がある。
- (ウ) 発言を主張、根拠、論拠と分類する思考を身に付け、論理性を高めるために、生徒が議論の分析を行う機会を意図的、計画的に設定する必要がある。

パネルディスカッションについて	
[テーマ]	[パネルディスカッションの構成者]
①地球環境を守るために、何をすればよいか。	①コーディネーター（司会者）
②学習する意味は何か。	②パネリスト（発表者）
③集団生活で得られるものは何か。	③フロアー（聴衆）
④職業を選ぶ上で大事なことは何か。	※フロアーの3種類の活動
<b>[進行の流れ]</b>	①意思表示カードの提示
①コーディネーター、パネリストの自己紹介	②議論分析の記録
②パネリストの意見紹介	③評価票への記入
③パネリスト同士の質問、意見交換	①、②は、議論分析。班のパネルディスカッションごとに
④フロアーからの意見とパネリストの応答	活動を交代し、全員が3種類の活動を経験する。



## 2 「個に応じた指導」の充実を図る「書くこと」の学習指導（国語総合）（第1学年） —古典を引用して名所案内を書く

- (1) 単元名 「古典を引用して名所案内を書く」（6時間）
- (2) 教材 松尾芭蕉「奥の細道」（「漂泊の思ひ」「平泉」）橘南谿「西遊記」（「目鏡橋」「阿蘇山」「雲仙」等）、手本として、各種旅行ガイドブック（「奥の細道を歩く」等）
- (3) 単元設定の理由

生徒は、メール等を活用した文字によるコミュニケーションを多く行っているものの、相手意識を十分にはもつに至らず、自分の主張を一方向的に理解させようとする表現にとどまりがちである。

本研究では、「国語総合」の「2 内容」の「B書くこと」の指導事項ア「相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えて書くこと」、ウ「優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てること」、及び、「3 内容の取扱い」の(3)イ配慮すべき事項の言語活動例(ウ)「本を読んでその紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告などを書いたりすること」を踏まえ、優れた表現として古典の作品を取り上げた。現代の文章への引用の方法を調べ、自分の文章に応用し、相手に分かりやすい文章を書く能力を育成することをねらいとし、単元を設定した。

具体的には、「奥の細道」が現代の文章にどのように引用されているかを調べ、その結果を応用して、学校図書館やインターネットから収集した材料と、江戸期の紀行文を基に「名所案内」を書く活動を設定した。

#### (4) 単元の目標

- ア 国語や言語文化に対する関心を深め、進んで表現しようとする。(関心・意欲・態度)
- イ 優れた表現を自分の文章に生かし、相手に効果的に伝わる文章を書く。(書く能力)
- ウ 現代の文章への引用の方法を知り、古典作品への理解をさらに深める。(知識・理解)

#### (5) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
①国語や言語文化に対する関心を深め、進んで表現しようとする。	③優れた表現を自分の文章に生かしている。	⑤古典作品の内容・描写について理解している。
②相手や目的にふさわしい材料を収集、選択しようとする。	④読み手の立場に立って、興味・関心を引くような文章を書いている。	⑥現代の文章への引用の方法を理解している。

#### (6) 指導上の工夫

- ア 事前のアンケートを実施し、中学校での学習状況を把握し、指導に生かす。

※事前のアンケートー「奥の細道」に関する中学校での学習状況の確認ー

①学習経験(音読・現代語訳の作成・暗唱・解釈・その他の学習) ②学習した箇所

※アンケート結果で把握した中学校での学習状況とそれに基づく指導方針

詳しく学習した生徒が多いので、解釈に時間を割かず、大意を確認するためのワークシートを使用する。

- イ 文章の難易度の異なる課題文(6種類)を用意し、学習状況の定着に応じて生徒が選択できるようにする。
- ウ グループ別学習にすることにより、原稿材料の収集や推こうに当たって、グループ内の生徒相互の協力・比較を行う機会をもたせ、主体的な学習活動になるようにする。
- エ 原稿材料の情報収集に当たりインターネットを利用し、多人数の生徒が、同時に多くの原稿材料を収集できるようにする。また、簡便に利用できるようにするために、学習活動に必要な「資料集」「リンク集」を、ホームページとして作成する。
- オ 毎時の定型評価を実施し、「個に応じた指導」を行う。

#### (7) 指導と評価の計画 8ページ参照

#### (8) 成果と課題

##### ア 成果

- (ア) 事前アンケートにより中学校での学習内容を把握し、中学からの継続性をもたせた学習活動を進めることができた。
- (イ) 「名所案内」という形で、読み手を意識した文章を書くことにより、読み手の求める情報を意識し、構成を工夫した文章を書く力が養われた。
- (ウ) 古典の文章を題材に取り入れることにより、古典作品の優れた表現を味わいながら文章を書くことができるようになった。
- (エ) 授業評価の結果を踏まえて、6種類用意した課題から選択することにより、興味・関心・意欲をより一層引き出すことができた。
- (オ) グループ活動にコンピュータ(インターネット)使用を導入することにより、情報収集の効率が上がった。
- (カ) 校内研修の推進については、地図などの準備・図書資料の収集・コンピュータの使用法と活用を通じて、地理歴史科・情報科・学校図書館と連携を図り、情報交換を深めることができた。また、課題文として修学旅行の訪問予定地を取り上げ、学校行事との関連性を深めることができた。

##### イ 課題

- (ア) インターネットの使用については、情報科と連携を図り、学習状況において十分満足できると判断される生徒をグループ活動の中核として生かす必要がある。
- (イ) 図書館の活用を進めるに当たっては、課題図書の手配など、司書教諭等と緊密な連携が必要である。

(7) 指導と評価の計画（「書くこと」分科会）

※個に応じた指導に関わる部分については、斜体字で表記

時間	各時間の目標と評価規準	評価の実践と方法	学習活動	指導上の留意点
1	・「奥の細道」を読み、親しむ。 ・大意を理解する。 【関心・意欲・態度】①【知識・理解】⑤ 【読む能力】	1 関心・意欲をもって本文を読んでいる。 【発言の観察】① 2 大意を適切に把握している。【記述の確認】⑤・読む ワークシートⅠ・評価票	1 教材「奥の細道」（二段）を確認後、二人一組 になって読み合う。 2 大意を理解する。	1 事前アンケートを実施し、「奥の細道」についての中学の 学習状況を把握しておく。
2	・古典の現代の文章への活用のされ方を知る。 ・引用の観点を考える。 【関心・意欲・態度】①【知識・理解】⑥ 【話す・聞く能力】	1 意欲的に話し合いに参加している。 【行動の観察】①・話す・聞く 2 引用の観点を的確に把握する。【記述の確認】⑥ ◆ワークシートⅡ・評価票	1 「手本」(ガイドブックに掲載されている文章) に引用されている部分を抜き出し、その観点を 話し合う。 2 話し合った内容をワークシートに整理する。	2 引用の観点を「名所案内のツボ」として、第3時以降の 「名所案内」作成の手がかりとして意識させる。
3	・課題の「西遊記」を読み、大意を理解する (優れた表現を知る)。 【関心・意欲・態度】①【読む能力】 ・「名所案内」を書くに必要な情報を収集す る。【書く能力】③	1 関心・意欲をもって本文を読んでいる。 【行動の観察】① 2 大意を適切に把握している。【記述の確認】⑤・読む 3 「引用の観点」を踏まえた情報収集をしている。 【記述の点検】③ ◆ワークシートⅢ・評価票	1 課題教材「西遊記」から一段を選び、同課題 を選んだ4人程度でグループを構成する。 2 グループ内で課題文を読み合う。 3 課題文の大意を理解する。 4 引用の観点とともに、課題文から必要な情報 を収集する。	1 第2時の評価票に基づき第3時以降の課題を選択させる。 2 課題を6種類用意し、興味と難易度に応じて選ぶ。 評価Cの生徒への指導の手だての例 提示した課題には平易な内容の「補充課題」を用意してお き、取り組ませる。 3 次時に向けて、図書等で情報収集を指示する。
4	・「名所案内」に必要な情報を収集する。 【関心・意欲・態度】② ・「名所案内」を執筆する。 【書く能力】④	1 意欲的に情報収集に取り組んでいる。【行動の観察】② 2 「引用の観点」を踏まえた構成で文章を書いている。 【記述の確認】④ ◆ワークシートⅣ・評価票	1 「名所案内」を書くための材料を、各自収集 する（インターネット）。 2 各自、「名所案内」（下書き）を書く。	1 授業用のホームページ（データ集）を作り、インターネッ トに対する習熟度に応じた検索をさせる。 評価Cの生徒への指導の手だての例 文章作成を苦手とする生徒に対しては、「手本」を参考にし て文章を書かせる。
5	・「名所案内」の検討と推敲をする。 【書く能力】③ ・紙上発表の準備をする（清書）。 【書く能力】④	1 グループ活動に積極的に関わり、情報交換に取り組ん でいる。【行動の観察】③ 2 情報交換を踏まえ、文章の再構成をしている。 【記述の確認】③ 3 読み手を意識し、丁寧な字を書く。【記述の確認】④ ◆ワークシートⅤ・評価票	1 各自で執筆した「名所案内」を持ち寄り、班 内で比較する。取材した情報を提供し合う。 2 推こうし、構成や表現に工夫を加える。 3 紙上発表に向け清書をする。	1 持ち寄った情報のうち、必要なものを選んで取り入れるよ う指示する。 2 漢字等、表記の誤りについては、辞書で確認させる。 3 内容、表記をそれぞれについて、読み手を意識した文章を書か せる。
6	・制作した「名所案内」を紙上発表し、 相互評価する。【書く能力】③ ・相互評価の結果を自己分析する。 【書く能力】④【知識・理解】⑤	1 他人の文章に対して的確な批評をする。 【記述の確認】③ 2 評価された内容について、自己分析ができている。 【記述の点検】⑤ ◆ワークシートⅥ・評価票	1 紙上発表された「名所案内」を読み、相互評 価する。 2 相互評価の結果を自己分析する。	1 課題で取り上げられた名所に関心がある「名所案内」に なっているかという観点で評価をさせる。 2 自己評価に生かせる建設的な評価をさせる。

3 「個に応じた指導」の充実を図る（「読むこと」）の学習指導（現代文）（第2学年）  
 ー話し合うことにより作品への理解を深め、人間の生き方について考えるー

- (1) 単元名 話し合いを通して読むことにより作品への理解を深め、人間の生き方について考える
- (2) 教材 夏目漱石「こころ」下「先生と遺書」第35節～第48節
- (3) 単元設定の理由

「読むこと」の指導は、国語総合において最も多くの時間が配当されている。そして、様々な文章を読解し、表現方法や語句についての知識を深める等、授業に要求される内容も多岐にわたる。それにより生徒は、文章を読み味わい、自由に鑑賞し、主体的に学習する態度を身に付けることができる。しかし、従来の「読むこと」の指導は、ともすると授業者による模範的な読解を生徒に解説することによしとするきらいがあった。「高等学校学習指導要領解説」によれば、現代文では、「文学的な文章は、時間をかけて詳細かつ部分的に読み込むよりは、全体を読み味わうことが重要である」とされ、国語総合における評価の観点の踏まえての指導が求められている。「読むこと」の指導では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連付けた上で、生徒にバランスよく的確な力を身に付けさせる必要がある。（学習指導要領「現代文」3-(1)）

本研究では、学習指導要領「現代文」の「2 内容」イに基づき、「3 内容の取扱い」(1)と(4)言語活動例イに着目し、話し合いを重ね、生徒同士の多様な読みを交流させることによって「読む能力」を高め、文学作品から人間の生き方について考えるという学習指導を構想した。また、「3 内容の取扱い」(2)に照らして考え、長期休業日中の課題として「こころ」全文の読破も取り入れている。

(4) 単元の目標

- ア 日本の文学作品に対する関心を深め、進んで理解しようとする。（関心・意欲・態度）
- イ 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、文章を的確に読み取る。（読む能力）
- ウ 優れた表現方法や語句の意味を知ることにより、豊かな言語生活に役立てる。（知識・理解）
- エ 教材だけではなく、広く様々な本に親しむ。（読む能力）

(5) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①日本の文学作品に対する関心を深め、進んで理解しようとする。 ②進んで読書しようとする。	③表現や構成の特徴を把握しながら、文章を的確に読み取っている。 ④話し合いとワークシートへの記入を通し、自分の考えを深化・発展させている。 ⑤作品を読むことで、ものの見方・考え方を、広げたり深めたりしている。	⑥文学作品を読み味わうために、語句を的確に理解している。 ⑦優れた表現に触れることで、語いを豊かにしている。

(6) 指導上の工夫

- ア 課題プリントと文庫本を配布し、夏季休業日中に作品の全体像を理解させる。
- イ あらかじめ疑問点を明確にさせておくこと、「重要」「まあ重要」「気になる」の3区分で本文に色別のラインを引かせることにより、自己の読みの深まりを後で確認できるようにする。
- ウ 多様な読みの交流の機会としてバズ・セッションを設定し、意見を出しやすいようにする。
- エ バズ・セッションを通じて話し合った内容をワークシートへ記入することで、自己の思考過程を確認できるようにする。
- オ 毎時の定型評価を実施し、「個に応じた指導」を行う。

K	私	*登場人物になり 2年	ワークシート	
				ワークシートVII 2年組 番号前( ) )
				*ワークシートVIと比較して、気付いたところを書いてみよう。
				人間の生き方について、考えたことをまとめよう。



(7) 指導と評価の計画（「読むこと」分科会）

(7) 指導と評価の計画（9時間扱い） 現代文（第2学年）

※個に応じた指導に関わる部分については、斜体字で表記

時間	各時間の目標と評価規準	評価の実際と方法	学習活動	指導上の留意点
1	<p>全体の把握・作品の設定への理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に関心をもち進んで理解しようとする。【関心・意欲・態度】①</li> <li>・文学作品を読み味わうために語句を的確に理解している。【知識・理解】⑤</li> <li>・表現や構成の特徴をつかみながら文章を的確に読み取る。話し合うことによる自分の考えを深める。【読む能力】②③</li> </ul>	<p>1 関心・意欲をもって、取り組んでいる。【行動の観察】①</p> <p>2 自分の解答について、補足修正をしている。【記述の確認】⑤</p> <p>3 自分の意見をまとめ、他人の立場を尊重した話し合いをしている。【行動の観察】①</p> <p>4 話し合い後、気づいた点を書いている。【記述の点検】②③</p> <p>◆事前課題・ワークシートⅠ・評価票</p>	<p>1 事前課題の内容を確認する。「ところ」全体を通しての疑問点をピックアップする。</p> <p>2 登場人物について確認する。</p> <p>3 「私」と「K」の人物紹介を書く。</p> <p>4 パズ・セッションの方法について説明する。</p> <p>5 パズ・セッション1</p> <p>テーマA 「私の状況・Kの状況」</p> <p>テーマB 「私の性格・Kの性格」</p> <p>6 報告を聞き、ワークシートにまとめめる。</p>	<p>1 他者の発言や授業者による解説に十分耳を傾けることができるよう、集中させる。</p> <p>2 話の流れが前後しないよう、適宜板書をし、理解の手助けとする。</p> <p>3 疑問点が明確になるよう、特に気になる部分には本文に線を引かせる。</p> <p>4 読解の手助けとしてパズ・セッションという方法を利用していくことを伝える。</p> <p>5 パズ・セッションの形態に慣れさせる。</p> <p>6 セッションリーダー一つにつき時間は5分ほど。</p>
3	<p>内容を主体的に読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を進んで理解しようとする。【関心・意欲・態度】①</li> <li>・文章を的確に読みとる。</li> <li>・話し合うことによる自分の考えを深めたり発展させたりする。【読む能力】②③</li> <li>・語句を的確に理解している。</li> <li>・優れた表現に触れ、語いを豊かにしている。【知識・理解】⑤⑥</li> </ul>	<p>1 主体的に取り組んでいる。【行動の観察】①</p> <p>2 自分の意見をまとめ、他人の立場を尊重し、積極的に話し合いをしている。【行動の観察】①③⑤⑥</p> <p>3 ワークシートに自己の読みの軌跡が記述されている。【記述の確認】③</p> <p>【記述の点検】②③</p> <p>◆ワークシートⅡⅢⅣⅤ・評価票</p>	<p>1 35節～37節、40節～41節を、朗読テープを聴きながら読み、「重要」「まあ重要」「気になる」の3区分で本文にラインを引く。</p> <p>2 ラインの箇所を確認する。</p> <p>3 パズ・セッション2</p> <p>「精神的に向心のない者は馬鹿だ」</p> <p>テーマA 「私は何を伝えようとしたか」</p> <p>テーマB 「Kはどう受け止めたか」</p> <p>4 42節～43節、44節～48節を同様に学習する。</p> <p>5 パズ・セッション3 「覚悟」</p> <p>テーマA 「私は何を伝えようとしたか」</p> <p>テーマB 「Kはどう受け止めたか」</p> <p>6 パズ・セッション4</p> <p>テーマA 「私とKの関係性を象徴しているものは何か」</p> <p>テーマB 「機軸の叙述の意味するところは何か」</p> <p>7 パズ・セッション5</p> <p>テーマA 「Kの自殺の原因について」</p> <p>テーマB 「未解決の疑問点について」</p> <p>8 報告を聞き、ワークシートにまとめめる。</p>	<p>1 「重要」「まあ重要」は1～2か所に絞らせる。「気になる」部分は制限しない。</p> <p>2 次回のセッションテーマに集約していく。</p> <p>3 パズ・セッションの班編成は毎回変化させるようにする。</p> <p>4 和問指導によりすべての生徒の状況を把握する。</p> <p>5 話し合いの進行状況により、さらに理解が深まるような課題などの助言を行う。</p>
5				
6				
7				
8				
9	<p>人間の生き方について考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を進んで理解しようとする。【関心・意欲・態度】①</li> <li>・作品を読むことでものの見方考え方を広げたり深めたりする。【読む能力】②③④</li> </ul>	<p>1 自分の考えを深めようという姿勢で取り組んでいる。【行動の観察】①</p> <p>2 自己の読みの変容を把握し、記述している。【記述の確認】【記述の点検】②③④</p> <p>◆ワークシートⅥⅦ・評価票</p>	<p>1 「私」「K」について再度人物紹介を書き、Iと比較する。気付いたことを書く。</p> <p>2 人間の生き方について考えたことをまとめめる。</p> <p>3 作品と作者について授業者の解説を聞き、理解を深める。</p>	<p>1 「私」「K」の立場を理解し、感情移入できるようにする。</p> <p>2 授業者の解説によって生徒が文章の理解を知識として覚えることのないよう配慮する。</p>

## (8) 成果と課題

### ア 成果

- (ア) 近代の長編文学作品は、時代感覚のずれや語句の難解さから生徒には敬遠されがちではあるが、話し合いを通じた学習活動を工夫することにより、生徒が主体的に取り組むことができた。
- (イ) ラインを引く、バズ・セッションを行う、ワークシートに記入する、という一連の学習活動を通じて、生徒が自己の読みの軌跡を確認しながら読みを深めることができた。
- (ウ) 授業者の解説を単純に受け入れることに慣れていた多くの生徒も、多様な読みを交流させることにより、自ら問題を発見し、解決するという主体的な学習態度を身に付けることができた。
- (エ) 授業者が授業目標を明確にして、毎時の定型評価を行うことにより、生徒の学習状況を的確に把握することができた。これにより、「個に応じた指導」を意識的に行うことにつながった。
- (オ) 校内研修を通して、教科内では指導方法の改善への意識が高まった。校内においては、他教科や図書館との連携を踏まえた読書指導の必要性への認識が高まった。

### イ 課題

- (ア) 生徒が「主体的に読むこと」によって理解が深まっていくということを自覚できるよう、授業内容・評価方法をより一層工夫する必要がある。
- (イ) 学校図書館との連携を図るとともに、継続的な指導を通して生徒が読書に親しむ態勢を整えるよう、学校全体で取り組む必要がある。

## V 研究の成果と課題

### 1 成果

- (1) 学習指導要領に基づき単元の目標と評価規準を明確にした年間授業計画の作成が、「個に応じた指導」には不可欠であり「確かな学力」の育成につながることを、各分科会の共通成果とすることができた。
- (2) 「確かな学力」を育成するために、各分科会共通の定型化した評価票を用いた生徒による授業評価を毎時間行い、指導内容・方法を検証した。このことが生徒の主体的な取組を促し、「個に応じた指導」の充実につながった。
- (3) 「話すこと・聞くこと」「読むこと」の分科会においては、パネルディスカッションやバズ・セッションという他者とのコミュニケーション活動を通じて、「書くこと」の分科会はインターネットや図書資料を活用することを通じて、学習活動を展開した。これらは生徒の興味・関心・意欲を喚起し、「生きる力」の育成につながる重要な活動となった。
- (4) 「個に応じた指導」を充実させ「確かな学力」を育成するために、各委員が校内研修の推進役を担うことにより、教科を超えた成果があった。

### 2 課題

- (1) 「現代文」をはじめ、他の科目においても「国語総合」の各領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）を踏まえ、高等学校国語でどのような学力を身に付けさせるのかを明らかにした年間指導計画の作成が必要である。さらに目標と評価規準の明確化を継続して図っていく。
- (2) 生徒による授業評価を「個に応じた指導」に有効に活用するために、さらに評価規準や評価方法の工夫を重ねるとともに、校内研修により一層関連付けていくことが必要である。
- (3) 学習指導要領に従い、小中高の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域について、指導内容・方法を関連付けて系統化していく視点をもつ必要がある。
- (4) 学校図書館との連携を推進し、継続的な読書指導への取組が求められる。